

東京再開発ファンド（米ドルコース）通貨選択型
東京再開発ファンド（ユーロコース）通貨選択型

追加型投信／国内／株式

Capital Asset Management

商品概要・特色

商品概要	
商品分類	追加型投信／国内／株式
投資対象	「東京再開発マザーファンド」への投資を通じて、東京再開発関連ビジネスを行なう企業もしくは関連企業によって発行された比較的流動性の高い株式および株式関連証券を主要投資対象とします。
設定日	2014年1月16日
信託期間	2014年1月16日～2024年5月27日まで
決算日	原則として年2回。5月25日、11月25日（休業日の場合は翌営業日）とします。

通貨選択型の特色	
米ドルコース	原則として円売り、米ドル買いの為替取引を行なうことで、米ドルへの投資効果を追求します。
ユーロコース	原則として円売り、ユーロ買いの為替取引を行なうことで、ユーロへの投資効果を追求します。

各ファンドの現状・運用実績

基準日	米ドルコース	ユーロコース	
2018年6月29日			
基準価額	9,345 円	9,033 円	
前月比	+54 円	-40 円	
純資産総額	0.27 億円	0.16 億円	
前月比	-0.03 億円	0.00 億円	
期間収益	1 カ月	0.6%	-0.4%
	3 カ月	4.9%	-1.6%
	6 カ月	-11.6%	-14.8%
	1 年	0.0%	0.5%
	設定来	24.5%	-2.4%

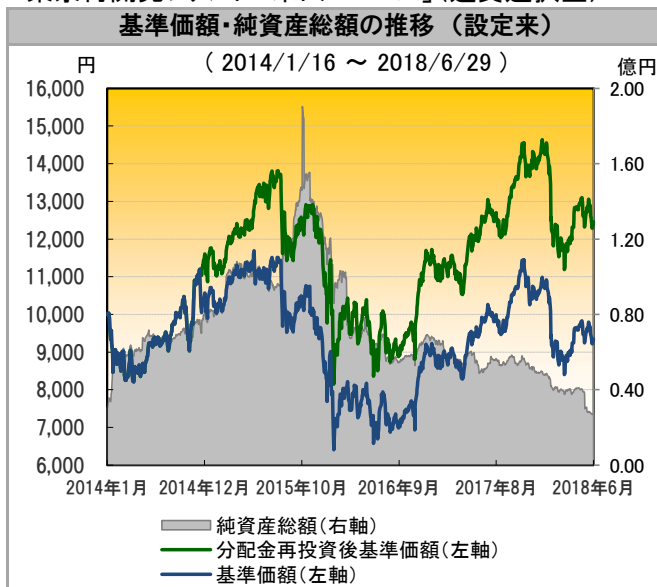
※ファンドの期間収益は、収益分配金（税引前）を再投資したと仮定して計算した理論上のものである点にご留意下さい。

資産構成		
	米ドルコース	ユーロコース
東京再開発マザーファンド	95.6%	97.6%
現金・その他	4.4%	2.4%
合計	100.0%	100.0%

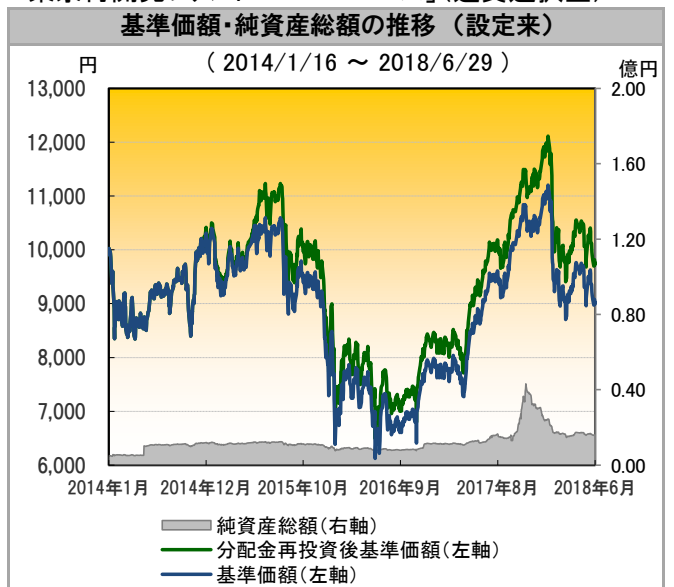
※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

分配金実績			
		米ドルコース	ユーロコース
第1期～第4期		2,600 円	600 円
第5期	2016年5月25日	0 円	0 円
第6期	2016年11月25日	0 円	0 円
第7期	2017年5月25日	0 円	0 円
第8期	2017年11月27日	500 円	200 円
第9期	2018年5月25日	0 円	0 円
合計		3,100 円	800 円

「東京再開発ファンド 米ドルコース」(通貨選択型)



「東京再開発ファンド ユーロコース」(通貨選択型)

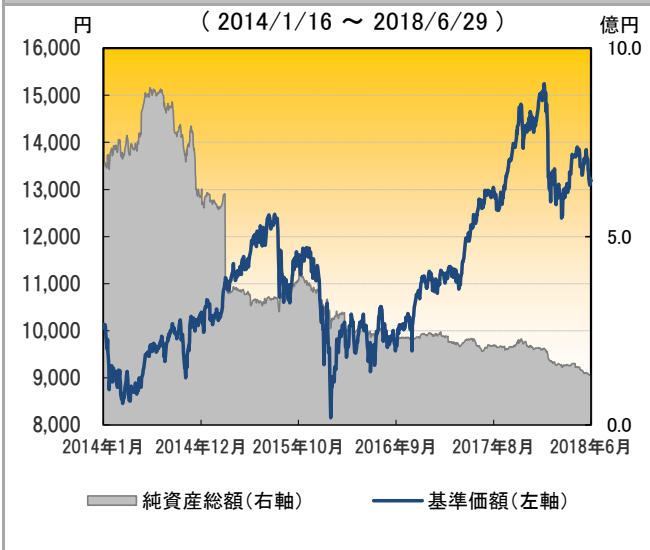


東京再開発ファンド（米ドルコース）通貨選択型
 東京再開発ファンド（ユーロコース）通貨選択型
 追加型投信／国内／株式

Capital Asset Management

東京再開発マザーファンド

基準価額・純資産総額の推移（設定来）



マザーファンドの現状

基準日	2018年6月29日
基準価額	13,180 円
前月比	-130 円
純資産総額	1.33 億円
前月比	-0.11 億円

期間収益

1 カ月	-1.0%
3 カ月	1.4%
6 カ月	-8.9%
1 年	4.6%
設定来	31.8%

資産構成

国内株式	95.1%
現金・その他	4.9%
合計	100.0%

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

組入銘柄数

27

東京再開発マザーファンド 業種構成比

業 種	組入比率
建設業	50.9%
不動産業	11.1%
陸運業	9.6%
電気機器	8.2%
非鉄金属	6.0%
ガラス・土石製品	5.8%
金属製品	5.7%
機械	2.7%
合計	100.0%

※ 業種は東証33業種分類に準拠しています。

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

組入銘柄 上位 10 銘柄

銘柄名	業 種	組入比率
大成建設	建設業	8.3%
大和ハウス	建設業	7.7%
熊谷組	建設業	7.3%
鹿島建設	建設業	7.1%
京三製作所	電気機器	6.2%
東急不動産HD	不動産業	6.0%
フジクラ	非鉄金属	5.7%
太平洋セメント	ガラス・土石製品	5.5%
東日本旅客鉄道	陸運業	4.8%
西武ホールディングス	陸運業	4.4%

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。

東京再開発ファンド（米ドルコース）通貨選択型 東京再開発ファンド（ユーロコース）通貨選択型

追加型投信／国内／株式

Capital Asset
Management

市況コメント

■ 国内株式市場の動向

■ 日本株式市場

6月の日本株式市場は貿易戦争への懸念から下落しました。月前半は、米雇用統計が好調で米景気の強さを再確認できたことや米朝首脳会談が政治的に成功したことを好感し、上昇しましたが、中旬以降、貿易戦争への懸念から下落に転じました。米国が輸入車にも追加関税を課す検討に入ったことやドイツ自動車メーカーのダイムラーが業績予想を下方修正したほか、米国バイクメーカーのハーレーダビッドソンが一部生産を米国から海外に移管する方針を示すなど、貿易戦争が企業経営に影響を与え始めたことが株式市場の重しとなりました。日本の代表的な株価指数であるTOPIXは、前月末比0.9%下落し、1,730.89ポイントで月末を迎えました。

■ 運用状況

マザーファンドの月間騰落率はマイナスとなりました。日本株式市場の下落によって組入銘柄の株価が下落したことがパフォーマンスのマイナス要因となりました。

■ 今後の見通し・運用方針

米国経済が順調に推移していることは日本株式市場にとってプラス材料となるものの、貿易戦争への懸念から引き続き上値は抑えられとみています。しかしながら、日本企業の収益性は改善しており、今後の企業業績への期待から外部環境が落ち着いた状況であれば上昇基調を維持していくものと予想しています。

リスク要因として、世界的な貿易戦争のリスク、トランプ大統領の政策リスク、英国のEU離脱といった欧州の政治リスク、中東情勢のリスクがあり、引き続き注意が必要です。

今後の運用方針として、世界的に地政学的リスクが高まっている中、今後、東京再開発が本格化していくことが見込まれ、底固い業績が期待される建設業セクターの銘柄を中心に組み入れていきます。

■ 為替市場の動向

○米ドル：6月末110.54円（前月末比1.7% 米ドル高/円安）

引き続き米国経済の好調さを確認できたことに加え、6月のFOMC（連邦公開市場委員会）で米国の政策金利を0.25%引き上げ、1.75～2.00%としたことや2018年の利上げ回数が見通しが上方修正されたことから米ドルは対円で上昇しました。

○ユーロ：6月末 127.91円（前月末比 0.9% ユーロ高/円安）

イタリアにおいてユーロ懐疑派の経済財務相の指名が回避され、無事に内閣が組閣されたことを好感し、ユーロは対円で上昇しましたが、6月中旬に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会で示された利上げ時期が市場予想より遅かったことから、上げ幅は縮小する動きとなりました。

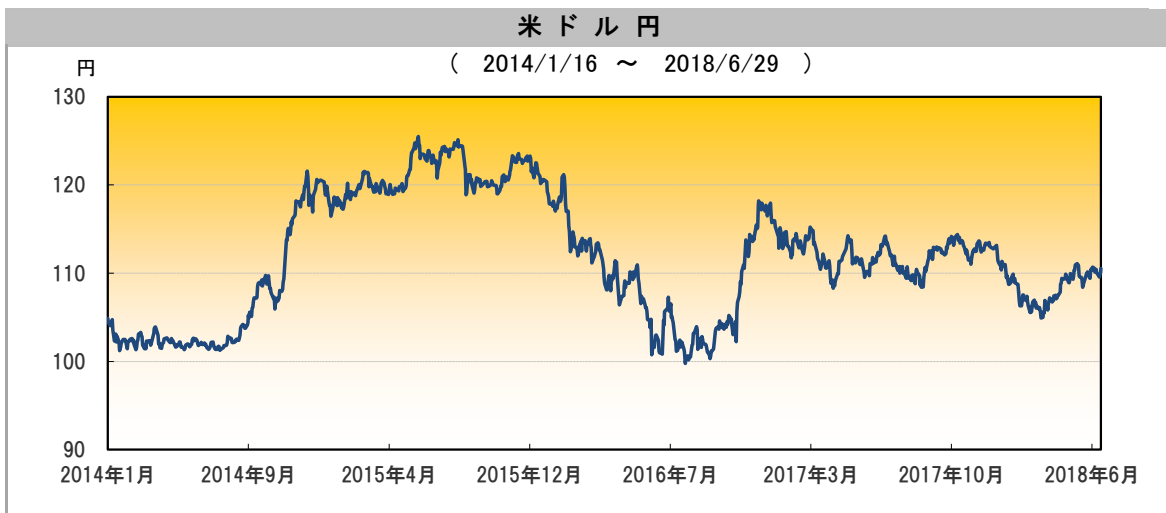
東京再開発ファンド（米ドルコース）通貨選択型
 東京再開発ファンド（ユーロコース）通貨選択型
 追加型投信／国内／株式

Capital Asset Management

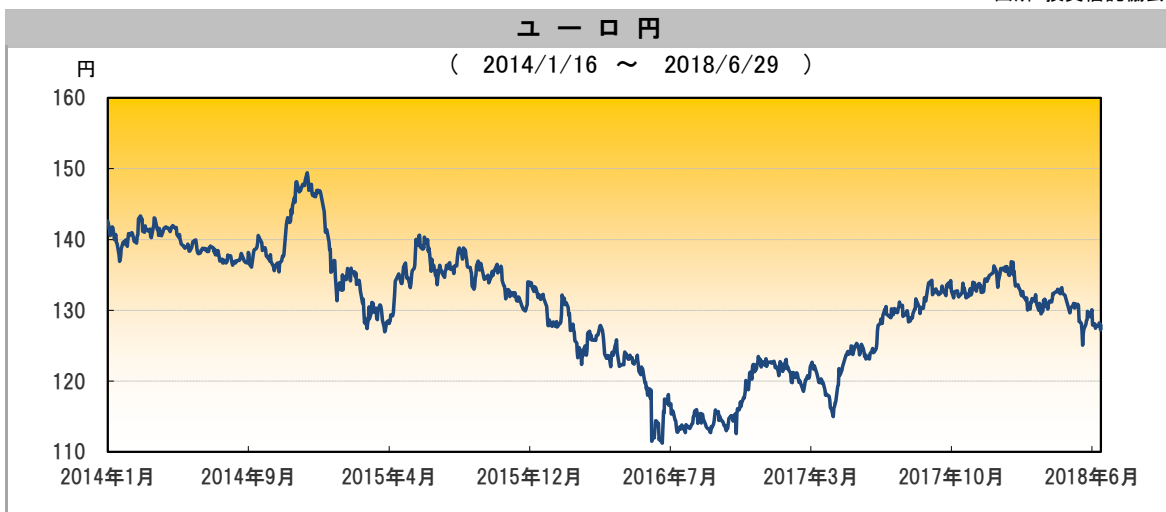
株式市場・為替市場の推移



出所:ブルームバーグのデータをもとにキャピタル アセットマネジメントが加工して作成



出所:投資信託協会



出所:投資信託協会

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。

東京再開発ファンド（米ドルコース）通貨選択型
東京再開発ファンド（ユーロコース）通貨選択型

追加型投信／国内／株式

Capital Asset Management

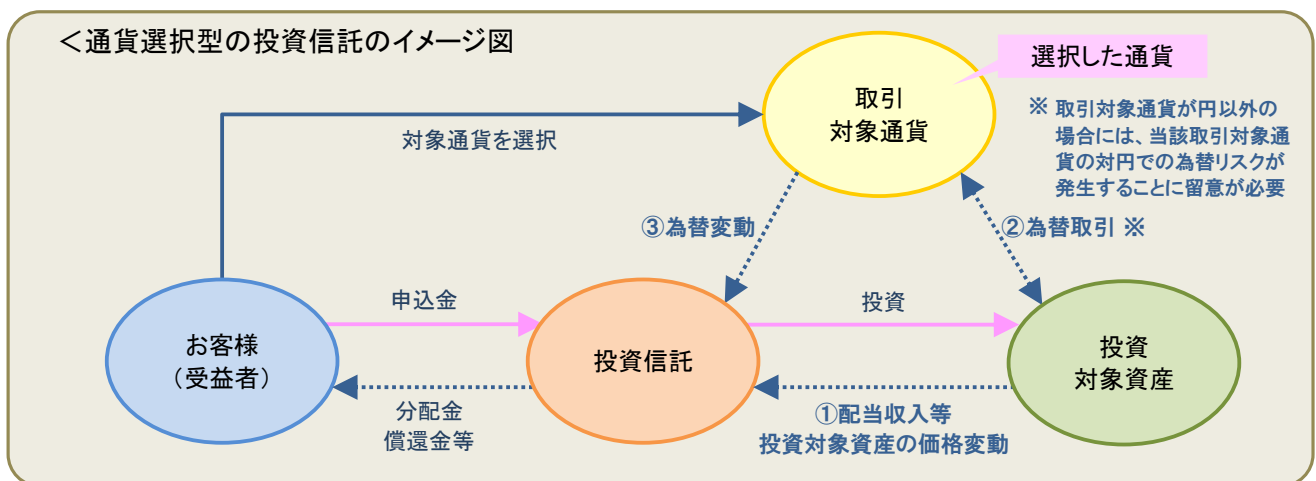
➤ ファンドの運用について

- 東京再開発関連ビジネスを行なう企業もしくは関連企業によって発行された比較的流動性の高い株式 および株式関連証券への投資に注力し、分散されたポートフォリオを構築することを目指します。
- トップダウン分析とボトムアップ分析を組み合わせたアプローチを用います。
 - トップダウン分析では、マクロ経済動向および政治情勢等の見通しについて検討し、投資判断に活かします。
 - ボトムアップ分析では、国内外の主要金融機関の貸借対照表、損益計算書などの財務諸表分析やその他情報等を参考に、してその金融機関が発行する証券への投資可否判断を行ないます。

※ なお、市況動向および資金動向により、上記の様な運用が行えない場合があります。

➤ 通貨選択型ファンドの収益/損失に関するご説明

通貨選択型の投資信託の収益源として以下の3つの要素が挙げられます。
これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



収益の源泉 = ① 配当収入等 投資対象資産の価格変動 + ② 為替取引による プレミアム/コスト + ③ 為替差益 / 為替差損

収益を得られるケース	投資対象の市況の好転 (株価の上昇等*) ↑ 投資対象資産(株式等)の価格の上昇	取引対象通貨の短期金利が投資対象資産の通貨の短期金利を上回る ↑ プレミアム(金利差相当分の収益)の発生	取引対象通貨が対円で上昇(円安) ↑ 為替差益の発生
損失やコストが発生するケース	投資対象資産(株式等)の価格の下落 ↓ 投資対象資産の市況の悪化 (株価の下落、発行体の信用状況の悪化等*)	取引対象通貨の短期金利が投資対象資産の通貨の短期金利を下回る ↓ コスト(金利差相当分の費用)の発生	取引対象通貨が対円で下落(円高) ↓ 為替差損の発生

※ 投資対象資産の価格の上昇/下落の要因は、資産の種類(債券、株式、不動産等)により異なります。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。

東京再開発ファンド（米ドルコース）通貨選択型

東京再開発ファンド（ユーロコース）通貨選択型

追加型投信／国内／株式

Capital Asset
Management

◆ ファンドに係わるリスクについて

当ファンドの基準価額は、主に以下のリスク要因により、変動することが想定されます。

株式の価格変動 リスク	当ファンドは、実質的に株式に投資しますので、当ファンドの基準価額は、株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。このような場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
為替変動リスク	当ファンドは、外国為替取引を行いません。投資している通貨が円に対して強く(円安に)なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば基準価額の下落要因となります。したがって、投資している通貨が対円で下落した場合には、基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
信用リスク	株式を発行する企業が、経営不安・倒産等に陥った場合、投資した資金が回収できなくなる場合があります。また、こうした状況に陥ると予想された場合、当該企業の株式等の価値は下落し、当ファンドの基準価額が下がる要因となる可能性があります。
流動性リスク	急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に株式を売買できないことがあります。このような場合には、効率的な運用が妨げられ、当該株式の価格の下落により、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
解約によるファンド の資金流出に伴う 基準価額変動リスク	解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券等を大量に売却しなければならないことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって、保有有価証券を市場実勢と乖離した価格で売却せざるをえないこともあり、基準価額が大きく下落することがあります。
資金移動に係る リスク	当ファンドの投資対象国政府当局が資金移動の規制政策等を導入した場合、一部解約、償還等の支払資金の国内への回金が滞ることがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

東京再開発ファンド（米ドルコース）通貨選択型
東京再開発ファンド（ユーロコース）通貨選択型

追加型投信／国内／株式

Capital Asset Management

◆ お客様にご負担いただく費用

①お申込時に直接ご負担いただく費用

■購入時手数料: 申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.24% (税抜3.0%)**を上限として、販売会社がそれぞれ定める手数料率を乗じて得た額とします。

②ご解約時に直接ご負担いただく費用

■信託財産留保額: 換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して**0.3%**

③投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

■信託報酬: 信託財産の純資産総額に対して年率**1.674% (税抜1.55%)**

■その他費用: 有価証券等の取引に伴う手数料(売買委託手数料、保管手数料等)、監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等

※上記の費用(手数料等)の合計額は保有される金額および期間等により異なりますので、予め表示することができません。

※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

【お申込に際してのご注意】

1.当ファンドは、「東京再開発マザーファンド」の受益証券への投資を通じて、実質的に東京再開発関連ビジネスを行なう企業もしくは関連企業によって発行された比較的流動性の高い株式および株式関連証券など値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。また、ファンドは預金または保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。第一種金融商品取引業者以外の金融機関は投資者保護基金に加入していません。

2.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。お申込の際には、投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめあるいは同時にお渡しますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

3.この資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは予想するものではありません。

4.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

◆ 委託会社その他関係法人の概要

■委託会社: 信託財産の運用業務等を行います。

キャピタル アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者関東財務局長(金商)第383号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会/ 一般社団法人日本投資顧問業協会

■受託会社: 信託財産の保管・管理業務等を行います。

三井住友信託銀行株式会社

■販売会社

金融商品取引業者名	登録番号	日本証券業協会	協日本一般社投信資顧問人業	協金一先社物取法引人業	取第一般社種業協金融法商品
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第44号	○		○	○
キャピタル・パートナーズ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第62号	○			○
明和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第185号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第195号	○	○	○	○

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。